

団塊のカタログ

第10号

平成10年4月

(吉田内閣)

第4章



昭和26年

30年の出来事

1月→**八海事件**

4月→マッカーサー元帥、米に帰国

10月→**社会党**、左右に分裂

真昼の暗黒

山口県熊毛郡麻郷村字^{おごう}**八海**^{やかい}で、早川惣兵衛・ヒサの老夫婦が殺害され、現金が盗難された事件。

おなじみの**拷問**による自白強要で、この頃の〇〇事件は大体このパターンである。

広島高裁で無期懲役判決に服した吉岡晃被告を除き、**阿藤周平**被告ら4人は一貫して無罪を主張した。

この事件を担当した**正木ひろし**弁護士の「裁判官」を原作に、**今井正**監督が31年に映画化したのが「真昼の暗黒」である。

当時の**最高裁**は「裁判中だからやめてくれたまえ」と異例の要望を出したが、この作品はその年のキネマ旬報のベスト・ワンに選ばれてしまった。

☆

一審・二審有罪、**最高裁**差し戻しとなり、これを受けた**広島高裁**は事件から8年後の34年「被告人らはいずれも無罪とする」との判決を下したが、今度は検察側がムキになって

上告、40年の**広島高裁**では一転して死刑を含む有罪判決になった。

結局、昭和43年の最高裁で、**被告全員無罪**の判決が言い渡された。

死刑の原判決が最高裁で無罪になったのはこれが初めてで、事件から17年9か月たった長い裁判も当時の新記録であった。

☆

帝銀事件のところでも述べたが、こういった**冤罪**(^{えんざい}無実の罪)事件を目にするたびに、次の2つのことを痛切に感じる。

ひとつは、正常な状態であったなら真犯人と容疑者は、そして意識があった時に殺されたのなら被害者は、絶対に真相を知っているということ。(当たり前といえば当たり前)

そして、その真相は一つでも解釈はいくつでもあり得るという皮肉な現実だ。

言うまでもなく、問題は後者である。

裁判官といえど人の子、罪を憎んで人を憎まずなんてことはあり得ず、おのれの感情や先入観で判断することだってある筈だ。

それは取り調べの警察官にもいえるだろうから、本人にその気はなくても結果的に容疑者に自白を強要することだって全然ないとはいえない。

そんなひどい悪条件が重なりあって、事実が曲げられることは我々の日常生活だってし

よっちゅうあるではないか。

もし、身に覚えのない容疑でショッピかれて、カフカの「審判」のような状況になったとしたらゾーッとする。

☆

難しい理屈は省略するが、ワシは**死刑廃止論**を支持する。

もし、容疑者が無実の罪で後になって真実が判明しても、死刑が執行された後だったら消化試合のノーヒット・ノーランじゃないけどなんの役にも立ちゃしない。

死刑肯定派の皆さんの気持ちも理解できるが、とりあえず**無実**を主張しかつ証拠不十分の被告の死刑執行はやめよう。

そのことにより、逆さハリツケ・足の裏クスグリ・針千本のます・とろ火あぶりの極刑にしてやりたい99人の極悪人が生き延びるかも知れないが、無実の小市民が一人救われれば良いではないか。

老兵は死なず

「おサルのお尻は真ッ赤ーサー」で有名な(?) **ダグラス・マッカーサー元帥**が、朝鮮戦争の戦略ミスで「あの子のパンツをトルーマン」で知られる(?) **トルーマン**大統領と対立、この年に解任されアメリカに帰国した。

1942年(昭和17年)空母の艦名にもなっている**ニミッツ**とともに太平洋戦線の司令官に任命された**マッカーサー元帥**は、終戦直後から**GHQ**(General Headquarters=連合軍総司令部。本部は日比谷の第一生命ビル)の最高指揮官として駐留、日本の戦後復興に大きく貢献した。

その功績を称えられ、1960年(昭和35年=ワシが小学校を卒業した年)には外国人には異例の旭日桐花大綬賞に輝いた。

数々の名言を残したことでも知られ、戦線

の司令官に任命された年にフィリッピンのコレヒドール島からミンダナオ島を経てオーストラリアに脱出した時の第一声、「**I shall return**」(アイ・シャル・リターン=私は戻ってくる=このままじゃ済まんゾ)はあまりにも有名だ。

その9年後に帰国、全員総立ちの鳴り止まぬ万雷の拍手(スタンディング・オベーション)の中、アメリカ議会で38分にもわたって演説した時の名セリフが「**老兵は死なず、ただ消え去るのみ**」である。

☆

マッカーサーを解任した**トルーマン**、歴代の大統領の一人として名前は残るであろうがただそれだけだ。(へたすりゃパンツだけ)

マッカーサーにもそれは言えるかもしれないが「**I shall return**」と「**老兵は死なず、ただ消え去るのみ**」の名セリフが光り輝く。

東京オリンピックが開催された1964年(昭和39年)になくなったのは印象的である。

合掌。

この頃から社会党

社会党臨時大会が開催され、講和・安保条約をめぐる対立、混乱、散会、そして**左右両派**に分裂した。

その後**民社党**がまず離れ**社民連**が続き、今では**社民党・民主党・新社会党**その他に分裂し、何がなんだかわからなくなっている。

共産党と並ぶ**非自民**の雄であった**社会党**、腐敗・金権に多くの国民は怒っているにもかかわらず、非武装中立、安保・自衛隊・原発・成田空港反対だなどとムチャクチャなことを言ってきた。色々問題はあってもそれらが必要だと思っている国民に対し、明確な説明も対案も示さないだけでなく、**村山サン**が**首相**になったらコロッと日和ってしまった。

もういいらない。

音 楽

- ★トゥ・ヤング (ナット・K・コール)
- ★上海帰りのリル (津村 謙)
- ★僕は特急の機関士で (森繁久弥、三木鶏郎
丹下キヨ子)

- ★アルプスの牧場、野球小僧 (灰田勝彦)
- ★東京シューシャインボーイ
ミネソタの卵売り (暁テル子)

☆第1回NHK紅白歌合戦

- ♪ They try to tell us we're too young
- ♪ 海を見つめていたー、
浜のキャバレーにいたー
- ♪ ボクはトッキュの機関士で
- ♪ 野球小僧に会ったかい、男らしくて純情で
- ♪ タマゴに黄身と白身がなけりゃ、お代はい
らない、コッコッコッコ・コケッコー

☆

このあたりの曲、リアルタイムでないから
思い出にはなり得ないが、歌詞の一部とメロ
ディーはなんとかわかる。

映 画

- ★イヴの総て (B・ディビス)
- ★サンセット大通り (G・スワンソン、W・
ホールデン。監督B・ワイルダー)
- ★チャンピオン (K・ダグラス。
監督S・クレマー)
- ★レベッカ (監督A・ヒチコック)
- ★黄色いリボン (J・ウェイン。
監督J・フォード)
- ★バンビ (ディズニー長編漫画)
- ★カルメン故郷に帰る (国産映画初のカラー
高峰秀子。監督木下恵介)
- ★白痴 (原節子、三船敏郎。監督黒沢明)
- ★麦秋 (原節子、笠智衆。監督小津安二郎)
- ☆羅生門、カンヌ映画祭グランプリ

ス ポ ー ツ

- ★プロ野球、第1回オールスター戦
- ★プロレス初試合
力道山はこの頃まだかけだし。

文 学

- ★三等重役 (源治鶏太)
- ★少年期 (波多野勤子)
- ★やまびこ学校 (無着成恭編)
- ☆芥川賞 安部公房 (壁)
- ☆直木賞 源治鶏太 (英語屋さん)
柴田練三郎 (イエスの裔)

漫 画

- ★かっぱ川太郎 (清水崑)
- ★来たるべき世界、アトム大使 (手塚治虫)
- ★クリちゃん (根本進。朝日新聞)

流 行

- ★ジャズ
- ★G I カット
- ★パチンコ
- ★社用族
- ★ノー・コメント

新 製 品

- ★バヤリース・オレンジ ★ワンマン・バス
- ★500円札 (岩倉具視)
この500円札、1度モデル・チェンジし
たが、昭和57年に硬貨が発行されてからは事
実上の安楽死宣言を受けた。
この頃の500円は大金だったが、今では
ラーメン1杯。(下記東京ー大阪参照)

物 価

- ★東京ー大阪 国鉄 770円
- 日航 6,000円
- ★テープレコーダー 160,000円
- ★映 画 80円

ワシが生まれたのは**江東区亀戸**らしいのだが、とんと記憶がない。

物心がつき始めた幼稚園以降に育ったのは**文京区春日町**だが、後に**本郷**に吸収合併されてしまうほど情けない町だったから、思い入れは全然ない。

だから**亀戸**で生まれて**本郷**で育った、が正確な表現だと思うが、学んだところが**湯島小学校**、遊んだ場所も**湯島**周辺だったから**湯島**で育ったでもいいかも知れない。

さて**湯島**と言えば**天神様**である。

時の最高権力者**藤原氏**の中傷によって**太宰府**に左遷され不本意な生涯を終えた**菅原道真公**（834年～899年）を奉る。

こち
東風吹かば 匂ひおこせよ 梅の花
あるじなしとて 春を忘れそ

梅の花よ、東の風が吹くようになったら、り込み匂いをあたり一面にまきちらしてくれ。

ボクがいなくても春を忘れないでね。

そんな意味だと思うが、それにしてもなんともいじけた御歌ではないか。

実際、**太宰府**では門を閉ざして外に出なかったらしく、結構クライ性格だったらしい。

まあ、それほどイヤイヤながらの転勤だったのだろうが、現代のサラリー・マンの悲哀にも相通じるものがあって、そう考えると急に身近な人のように思えてくる。

そういえば**太宰府**の近くの**博多**に単身赴任するお父さんのことを**博多のチョンガー**、略して**ハカチョン**というではないか。

で、そんなミッチャン、死んでからもどうにも納得できず、夜な夜なご近所に現れてはグチをこぼす。

「ボクの一生はなんだったんだろう。グズグズ、イジイジ、メソメソ、クドクド」

「コリャたまらんわい、成仏なされい」てなわけで**太宰府**の人たちが建設したのが**太宰府天満宮**……かも知れない。

「早く帰りたいナ」と未練が残る生地**京都**に建てられたのが**北野天満宮**らしい。

てなわけで、**天満宮**は**太宰府系**（死んだところ）と**北野系**（生まれたところ）の二派があって、その数は全国各地に1万2千とも3千ともいわれている。

権力者に逆らって出世コースからはずれたのに、こんなにももてはやされているのは奇妙な気もするが、学問に秀でていたところから現在の受験生とその関係者からありがたいがられているのだろう。

悲劇性と**判官びいき**がうまく合体したのかもしれないが、それにしても**天**（を治める）**神**とはなんとも大げさだ。（受験制度をうまく利用したといったら怒られるかな）

ワシ自身、生まれたところには**亀戸天神**、育ったところに**湯島天神**、今すんでいる**松戸市平賀**にもちっぽけな**天満宮**がそばにある。

この**平賀天神**、敷地面積57坪ほどのセコい神社で、ご神体だってあるのかないのか、神主さんなどみたことがなく、おなじのみ**梅の木**が申し訳程度に5本あるだけだ。

その他にも、モクセイ・サザンカ・シイ・スギ・サカキなどが所狭しと植わってはいるが、あまり手入れもしていないらしく、なんともまとまりがない。そばに住んでいるおばちゃんが奉仕精神で掃除だけはしてくれているのが唯一の救いである。

それでも町会の会合などにも利用されたりして、地元民に身近な存在ではある。